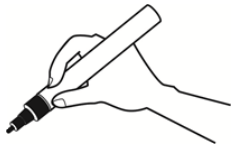
災害時の「伝える力」 第2弾 避難所・地域活動で活きる情報発信

前号（31 号）のホワイトボードの活用法に続き、今回は、ホワイトボードがない現場でも掲示の工夫次第で、住民の不安や現場のトラブルを防ぐことができる、日常の活動にも活かせる3つのポイントと備えをご紹介します。



1 「模造紙と養生テープ、水性太字マジック」で代用する

①効　果：壁や窓などの目立つ場所に大きく掲示することで、個々に書類を配布しなくても、その場にいる全員が、常に同じ最新情報を共有・確認できます。

②手　順：人がよく通る壁や窓ガラスに、模造紙を「養生テープ」で貼り、裏写りしない水性マジックで情報を書き込みます。また、窓ガラスは内側から外に向けて貼ることで、建物の中に入れない人へ情報を伝える「外向け掲示板」としても有効です。

2 情報の修正は「消さずに二重線」で行う

①効　果：「何が、どう変わったか」という修正の変化が見えるため、「さっき聞いた話と違う」「そんな変更は聞いていない」といった誤解やトラブルを未然に防げます。

②手　順：変更前の文字に**赤の二重線**を引き、その直下へ新しい情報を追記します。
「変更の履歴」をあえて残すことが、**情報の信頼性と住民の安心感に繋がります。**

★実例から：過去の避難所で、ホワイトボードの「給水時間」を消して新しい時間に書き換えたところ、変更前の情報を信じて並んでいた住民が水をもらえず、トラブルが起きました。「情報を消さずに履歴を残す」のは、こうしたすれ違いを防ぐためです。

3 遠くからでも見える「文字の太さ」と「色」を意識する

①効　果：生命に関わる最重要情報等が一目瞭然になるため、文字だらけの紙面でも情報が埋もれず、避難指示や危険箇所の案内といった「絶対に避けて通れない重要事項」の確実な周知と、現場のパニック防止に繋がります。

②手　順：文字は細いペンではなく、**必ず「太字のマジック」**を使い、**一文字5センチ以上**（拳ひとつ分）の大きさで書きます。また、何でも赤字で書くと重要度が伝わりにくくなるため、**黒：通常の案内**、**赤：命に関わる最重要（危険・避難）**、**青：変更点や追記**と、**3色を使い分ける**ことで格段に見やすくなります。

ご紹介した内容は、自治会での会議や地域行事の案内表示でも活用できます。日頃の活動から取り入れておくことで、いざという時にも迷わず実践できるようになります。ぜひ一度、役員の皆さんでお試しください。

【問合せ】 我孫子市社会福祉協議会　担当：山﨑　04-7184-1539